

# 邦楽普及拡大推進事業と大学サークル

聖路加国際大学大学院看護学研究科准教授 歌川光一

## 1. 邦楽普及拡大推進事業

2023年、全国邦楽学生フェスティバルが活動の幕を閉じることとなり、『邦楽ジャーナル』6月号にも特集記事が掲載されている。

他ジャンル同様、邦楽についても、若手の愛好家の育成について、中高の部活動、大学のサークルは大きな役割を果たしている。このうち高校については、全国高等学校総合文化祭、同祭優秀校東京公演、邦楽部を題材としたマンガの影響などもあり、一定の関心を集めやすい。しかし大学のサークルについては、その存在自体フォーカスされることが少ない。

そんな中、コロナ禍ということもあり、文化庁が令和3年度より、大学、高等学校向けに「邦楽普及拡大推進事業」を開始した。本事業は、邦楽振興に関わって高等学校のみならず、大学サークル支援に着目している点で興味深い。

本稿では、事業の概要を、令和4年度に採択された東京大学長唄研究会への取材をもとに紹介したい。

## 2. 事業の目的と支援メニュー<sup>1</sup>

事業の目的は、邦楽の継承と発展を図っていくため、「邦楽に関する大学の部活・サークル活動の充実を通して、生涯にわたり演奏や鑑賞を楽しむ愛好者となるきっかけ作りができるよう、安定的に稽古や実演に取り組めるような環境整備を行う」とされている。

採択団体には、年度ごとの活動報告に基づき、成果検証し継続の可否を判断のうえ、採択年度を含め4年間本事業による支援が継続される。

主な支援は以下の4つである。

### ①希望する楽器の無償貸与

箏曲・三味線音楽、雅楽、琉球古典音楽、和太鼓音楽、民謡等に用いられる楽器が無償で貸与される。楽器メニューの中から、希望する楽器を応募する。楽器は事務局の指定する楽器店からの提供となる。

### ②発表会に係る支援

---

<sup>1</sup> 2～3は、「令和4年度「邦楽普及拡大推進事業（大学向け）」公募要領」（令和4年3月22日）を参考にしている。

発表会（オンライン開催を含む）の開催（規模は問われない。例年実施している地域のお祭りや老人ホームでの発表会等、既存の発表会でも構わない。）にかかる以下の支援が提供される。支援内容としては、楽器運搬、ステージセッティング、オンライン配信のための撮影・編集、会場代支援である。金銭での支援ではなく、上記の支援を行う楽器店、撮影業者等が原則演奏会当日に手配・派遣される。

### ③他校との交流を図る「交流会」参加機会の提供

参加団体（高校、大学の部活・サークル）の演奏を動画で紹介するとともに、オンライン上で採択団体の学生同士がディスカッションできる他校との交流会の開催が支援される。

### ④邦楽や演奏曲をより深く理解するための「ワークショップ」参加機会の提供

著名な演奏家による演奏と奏法などの解説を行うワークショップが開催される（オンラインを想定）。

### ⑤著名な演奏家による講師派遣

通常では体験できない著名な演奏家による講師派遣が実施される。講師派遣は1回、2時間程度とし、希望する演奏家を指定する、楽器・流派を指定する、どちらの方法でも応募可能となっている。

## 3. 公募の要件

本事業に公募できるのは、箏曲・三味線音楽、雅楽、琉球古典音楽、和太鼓音楽、民謡等の活動を行っている大学公認の部活・サークル（複数の学校が合同で実施する活動を含む）となっている。応募に際して大学職員などの顧問の同意が必要となる。

応募に際しては、

- ・サークル活動や部活に参加するメンバーの増加
- ・サークル活動や部活の稽古の質や回数の向上
- ・メンバーの演奏技術の向上と、レパートリーの拡大
- ・OB や他団体との定期的な交流など

の4つの観点をふまえ4年後の目指すべき方向性を示した上で、本事業での支援を実施することによる本年度の目標を明確に示す必要がある。令和4年の場合、募集期間は3月下旬～4月下旬の1か月となっている。

上記の公募の要件を満たしていることを前提とし、次の評価項目にて絶対評価が行われ、評価点上位のものから選考される。

- ・活動内容に関する評価（趣旨・目的が、邦楽文化の継承と発展に寄与するものであること支援により効果が大きく見込まれること、計画の実現性が高いこと）
- ・実施体制に関する評価（継続的な活動が担保されていること、他団体の連携など幅広い実施体制であること）

- ・独自性（邦楽の普及に寄与する独自の視点がある）

選定結果は、令和4年の場合、6月上旬以降（予定）に、事務局より電子メール等で通知される形となっている。

#### 4. 東京大学長唄研究会の場合<sup>2</sup>

東京大学長唄研究会は、1999年に指導者・稀音家六綾氏、OB・OGらの働きかけにより活動を活発化させたサークルで、2023年6月現在、約30名のメンバーが所属している。稀音家六綾氏、六知種氏のご厚意により、お稽古代は無料、三味線自体は部でレンタルする仕組みとなっており、初心者でも長唄に参入しやすくなっている（年会費は基本的に5,000円、定期演奏代は別途。）。国際基督教大学（ICU）研究会と姉妹サークルであり、長唄研究会4月の新入生向けイベント（ワークショップ、お稽古体験）、5月の東京大学五月祭におけるコンサート、夏合宿、冬の東大ICU合同定期演奏会等の活動が行われている。本サークルの場合、日本文化への関心の高まりや、たまたま三味線音楽に触れる機会があった等の理由で新入生の部員も増加傾向にあるという。

邦楽普及拡大推進事業は、既に採択済みの他大学から情報を得て、令和4年度に応募し、採択に至った。元々、部員の金銭的負担を押さえるように努力されてきたが、「楽器の無償貸与」の支援を受け、同事業は有効に機能にしているということである。

#### 5. 大学サークルとアマチュア

本誌Vol.14では、「プロとアマチュアの境界線」（2020年10月）の特集も組まれたことがある<sup>3</sup>が、邦楽における大学サークルは、愛好家の裾野拡大にとって重要な役割を果たしている。高等学校の部活動ほどに競争性や生徒指導的要素が少ない一方、どこに「楽しさ」やその他の活動意義を見出すか、部員たちはより自覚的になり取り組むことになる。邦楽普及拡大推進事業が邦楽サークル活性化の起爆剤となるか、今後も注目していきたいところである。

##### 【付記】

本稿の執筆にあたり、「『趣味』の昭和史の構築」（サントリー文化財団 2022年度研究助成「学問の未来を拓く」）、「旧制高等女学校在学生、卒業生の音楽活動に関する実態解明」（一般財団法人 カワイサウンド技術・音楽振興財団 2022年度音楽振興部門研究助成）の助成を受けた。ここに記して感謝申し上げたい。

---

<sup>2</sup> 守屋峻生氏（前部長、東京大学文学部3年生）への聞き取り、「東京大学長唄研究会まったり活動記」（<http://blog.livedoor.jp/toudainagaken/>）、による。2023/06/29 最終アクセス

<sup>3</sup> <https://www.onbunso.or.jp/cmc-blog/6888/> 2023/06/29 最終アクセス